

## 公表例

### 令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(岡部中学校)

#### 平均正答率

##### 1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
岡部中	下回った	下回った	下回った	同等	下回った	下回った	下回った	下回った
埼玉県	62.5	54.6	57.0	52.0	51.5	56.7	60.2	51.5

##### 2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
岡部中	7-A	7-A	8-C	6-A	7-B	7-A	8-B	9-B
埼玉県	8-C	8-C	8-A	6-A	7-A	8-B	9-C	10-C

##### 3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
岡部中		1	1		3	1		2
埼玉県	3	1	2	1	4	2		3

## 公表例

### 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	中1 岡部中	中1 埼玉県	中2 岡部中	中2 埼玉県	中3 岡部中	中3 埼玉県
	・将来の夢や目標を持っている	90	83.2	77.4	72.6	82.4	70.3
深谷の子の誓い	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	81.7	72.5	61.3	68.9	58.8	67.0
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができている	96.2	88.1	92.9	88.1	94.8	87.5
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができている	93.1	89.6	92.9	91.6	89.5	93.1
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができる	94.9	89.5	91	90.9	95.4	90.8
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	68	49.1	47.1	47.8	54.3	47.3
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	59.1	63.0	68.4	61.6	65.4	69.1
学習等の関心	・授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じた	81.1	74.2	58.7	57.0	68.6	63.3
	・将来どの学校まで進みたいと思いますか【大学以上】	36.5	46.2	43.6	50.8	43.2	58.5
	・県や地域の歴史や自然に関心をもっている	70.5	57.5	63.9	47.4	43.7	41.3
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	79.9	68.3	69	61.2	55.6	64.2
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	91.2	84.6	76.7	79.5	84.3	84.0
	・国語や数学、英語の授業で、週1~2回程度以上タブレットを使っていた(3項目の平均)	67	60.5	24.3	37.5	75.8	42.2
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	35.7	26.0	31	13.5	24.2	13.8
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	96.8	95.6	98.8	96.3	97.4	95.8
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	94.3	93.7	94.2	94.3	92.8	94.6
	・学級での生活は楽しい	94.3	93.1	95.5	94.0	95.4	92.8

## 公表例

### 【質問紙分析】

- ・「将来の夢や目標を持っている」「誰に対しても進んで挨拶ができる」の項目は、全学年とも県平均を上回り、授業や宿題でのタブレット使用頻度は県平均よりかなり高い。
- ・休日の学習習慣や、将来大学まで通いたい生徒の割合は、総じて県平均よりも低い。

### 伸びが見られた学級・教科での取組

#### 【学級】

- ・話合い活動や学級会などを頻繁に行っているクラスは、学力の数値も高い傾向にある。
- ・「将来の夢や目標を持っている」や「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」生徒の割合が高いクラスは、学力の高い傾向にある。

#### 【国語】

- ・各学年、日常的に漢字練習や漢字テストを実施し、訂正や読み書きの指導を行うことで生徒の漢字への苦手意識がなくなり、無解答率が低くなっている。

#### 【数学】

- ・基本的な学習内容を反復練習しているので、問題を見るだけで解答の形が分かるような問題では、反応が良く、選択式の問題での無解答率が0%の問題も多い。

#### 【英語】

- ・各学年、埼玉全県の課題である「書くこと」と「話すこと（やりとり）」に注力した授業をスマールステップで各学年の段階に合わせておこなっている。話すことの機会を増やしているため表現力や話せることにより、リスニング力が向上している。

### 一人一人をより伸ばすための取組

#### 【学級】

- ・話合い活動や学級会などを頻繁に行っているクラスは、学力の数値も高い傾向にあるため、学級活動の（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」を受けた授業の充実をしていく。
- ・「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合が高いクラスは、学力の高い傾向にあるため、学級活動の（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」を受けた授業の充実も併せて行う。
- ・学級活動に優れた担任のノウハウの校内に共有していくことに注力する。

#### 【国語】

- ・文章中のキーワードとなる言葉や根拠を探したり、情報を取捨選択したりする問題の

## 公表例

正答率が低いため、日常的に文章中の事実と意見を区別することや、指示語の内容、言い換えの言葉を探す機会を増やしていく。

### 【数学】

・「簡単な確率を求めること」や平面図形を回転させつくることができる「回転体を選ぶこと」など、問題通りの見た目となる問題への反応は良い。その反面、「等式を $\text{り}$ について解く」ことや「確率の意味」など、形が変化するものや字面では読み取れない知識などを解答する問題では、見当違いな誤答も多い。この結果から、学習内容を反復して記憶させることとそれらの意味への理解を定着させることを授業では取り組む必要がある。そのための方法として、算数や過去の数学の既習事項を字面だけではなく、それらの意味まで深掘りするような授業を展開し、場合によっては「本時に関わる知識」の復習の時間を多くとることで本時の学習内容の理解が深まると考える。

### 【英語】

・「書くこと」の向上を狙ったプロセスを各学年の授業で実践しているが、文法理解がまだ疎く、不正解率が高くなってしまっている。「書くこと」を向上させるプロセスは今後も継続していくが、ローカルエラーをなくす細かい文法指導や、本質的な文法理解につながるような気付きを与える授業を英語科全体で鋭意努める。さらに、具体的な場面・状況を用意し、「このシチュエーションだからこの文法だ」という正しい文法を取り捨選択する機会を増やしていく。